

平成23年度

事業計画書

平成23年3月10日

財団法人 生涯学習開発財団

平成23年度 事業計画書

目次

Ⅰ	学習情報提供 及び 支援事業	P. 1
	[A] 「生涯学習情報誌」	
	[B] 資格認定事業	P. 2
	[C] 財団独自の資格認定事業 の推進案	P. 2
	[D] 国際団体支援事業	P. 3
Ⅱ	河口湖 有隣園 生涯学習研修センターの運営	P. 3
Ⅲ	助成金・奨学金の募集及び支給	P. 3
Ⅳ	博士号取得支援事業	P. 4
	1. 目的と背景	
	2. 事業計画—具体的作業	
	3. 推進体制	

平成23年度 事業計画書

I 学習情報提供 及び 支援事業

[A] 「生涯学習情報誌」

生涯学習事業を推進する企業・団体、自治体に役立つ情報及び生涯学習を続けたい市民や企業の社員に役立つ情報を提供する。

(1) 情報誌発行事業については、今後次の観点の内容の充実及び発行部数の拡大を図る。

①内容の充実

- ・ 学習に関する記事を新聞（全国紙・地方紙）及び生涯学習雑誌（「社会教育」）等専門誌からクリッピングし、内容別に分類、編集
- ・ 特集
 - 人気講座はこうやって創る（販促事例）
 - 資格をとって何ができるか？
 - 定年後に活躍できる資格や知識
- ・ 連載
 - 新連載 「古典再発見」 長尾剛先生
 - トピックス
 - ・ 時代に合った資格や注目に値する資格を詳細に紹介する
 - ・ 和の暮らし
 - ・ 社会のために
 - ・ 学びで人生を変える
 - ・ 社会起業大学との連携
 - ・ 日本の文化継承に取り組む若い人に焦点を当てた
 - ・ 博士号取得支援事業とリンク
 - 生涯学習リーダー研修とのリンク

②発行部数拡大の推進案

- ・ 公共の生涯学習施設等に無料配布

- ・生涯学習センター
- ・自治体の生涯学習課 など

各無料配布先の自治体には生涯学習のリーダー育成に活用して頂くのと併せてリーダー研修も新規事業化に期待できる

- ・LL会員の会費を下げても会員拡大をする
- ・特集や取材記事を充実させて情報価値を高める
- ・会員が投稿・発表できる場とする

◇有料読者の拡大という点では、コミュニケーションプラザ等の複合的会員拡大策が有効と考えられる

③ライフラーニングメンバーズ

- ・ライフ・ラーニング交流会 1年に1～2回 本年度は4月の予定
- ・毎年1回行われる文科省との共同開催の全国生涯学習ネットワークフォーラム
岩手大会（まなびピア岩手2011）に本年も参加の予定
平成23年10月15日(土)～17日(月)

〔B〕 資格認定事業

ライフ・ラーニング・メンバーズの会員の中で特に生涯学習に関する講座・プログラムを主宰している企業、団体の事業に対し、レベルアップに応じて資格を与える際に、財団がこれを共催、後援する形で行う事業。原則として一業種一種とする。

後援講座・資格名 及び企業・団体名

◇SRS式速読法インストラクター	(株) シーコミュニケーション
◇健康管理士一般指導員	NPO 日本成人病予防協会
◇認定コーチ、認定プロフェッショナルコーチ	(株) コーチ・エイ
◇食生活アドバイザー	(学) 電子学園・FLA ネットワーク
◇経営管理指導士	(株) ビジネス・ブレイクスルー大学院大学
◇サプリメント管理士	NPO 新生活普及協会
◇NLP マスタープラクティショナー	(株) ホロンPBI
◇アート・セラピスト	(株) クエスト総合研究所
◇メンタル心理士、メンタル心理専門士	NPO 医療福祉情報実務能力協会
◇実用万象学スキルディング講師	(株) Jーバン
◇営業一種	(株) グローバルステージ

〔C〕財団独自の資格認定事業（講座やテキストの発行も含む）の推進案

資格認定事業について、次のとおり新規事業の構築をめぐり、その際、当財団独自の受験対策講座やテキストの開発、発行も含めた事業の総合的事業展開を図る。

このことにより、同時に現在の協賛会員の結びつきの強化につなげる。

①和の暮らしアドバイザー

和の暮らしの良さを世の中に訴え、共感する人やお店などに具体的にアドバイスできる人材を育成する。和の心、行事、立ち居振る舞いから衣食住まで幅広い知識と和服の着付けなどの実技を習得させる。

②生涯学習リーダー（エキスパート）育成事業

各自治体の生涯学習課の担当職員を対象に各専門家による講義等によって日本人としてのアイデンティティや文化などを0歳～100歳までの生涯学習支援が出来るリーダー（公共の生涯学習を事業として企画・経営できる人材）を育成して修了書・認定書を出す。また、学習機会の拡大、低コストの運営からE-ラーニングや通信講座のテキストも活用して、社会に役立つ人材育成が出来るリーダーを育成する。特別セミナー等に河口湖有隣園も活用可能

〔D〕 国際団体支援事業

毎年6月に6大陸ワールドツアーの公演活動をするハーバード大学男子アカペラグループの日本ツアーを後援する。その際、財団及び理事長からの寄附金を地方公演他 各地で行われるコンサート後、販売するCD（2年ごとに作成）作成という名目に変更する。日本国内で販売する分に限り「生涯学習開発財団の寄附」とCDの裏に記載する。当財団の国際事業への後援を明確化する。

予定

今年日本各地での公演（6月15日～26日）予定

6月 16日～18日	広島県
19日	早稲田クラブグリーと共演（帝京大学内）
20日	（株）コーチエイの社内のホール
22日	筑波大学 内
25日	川崎市国際交流センター

Ⅱ 河口湖 有隣園 生涯学習研修センターの運営

①「有隣園 資料館」の床下構造部分の地盤沈下修復作業を昨年4月に終了したので、現在も定点観測を継続実施中。資料館の英米文学図書の閲覧を開始する予定。

②研修センターの案内パンフレットを作成予定。セミナーや勉強会等を有料で貸すことを検討。また、河口湖町のイベントや山梨県関係の行事などで利用できる多目的ホールとしての展開も思案中。

付属施設などの活用

全天候型のテニスコートが利用されていないままあるので、貸しテニスコートやフットサルコートとして活用する。現在あるフェンス他移動式フェンスを使用し、近郊のホテルの利用者や大学の部活・サークルに提供する。

Ⅲ 助成金・奨学金の募集及び支給

今年度も生涯学習のより一層の推進を図るため、研究活動に対して資金援助を実施する。募集期間を平成23年4月1日より平成24年1月10日までとし、ホームページを通して広く一般公募する。助成金も昨年同様とする。

①調査、研究に対する助成

- ・生涯学習の開発または推進等に関する調査、研究であり、その具体的成果が期待されるもの。
- ・独自の発想をもとに研究したもの。

②奨学金のテーマ

- ・生涯学習の啓蒙、実践、推進等に関する調査、研究でありその具体的成果が期待されるもの。
- ・独自の発想をもとにしたもの。

Ⅳ 博士号取得支援事業

1. 目的と背景

- ① 目的：年齢が50歳以上で、知的好奇心を持ち、かつ博士号の取得を目指す方々を支援するとともに、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りに貢献する。
- ② 背景：平均寿命が延びている今日、長い老後をいかに過ごすかは注目されている。それを背景に、企業人生において一定の職業的成功を収め、定年後を見据えて第二の人生、第二の職業について考える人たちが増えている。第一の職業人生で得たのと異なる体験と感動や達成感を求め、大学の博士課程に入学したり、あるいは独学で博士号の取得を目指したりする人も少なくない。

もともと高学歴を持つ専門技術者が多い諸外国に比べて、日本の企業では学士号しか持たない人が多い。そのため、海外の企業との交流を経験した人たちは、学位の取得に対し、高い関心を持っている。

学位の取得は企業人生において達成できなかった宿願を叶えてくれるだけでなく、第二の職業に役立ったり、あるいは老後の人生に充実感をもたらすことができる。本事業はそうした社会的な要請に応えることができる。

2. 事業計画－具体的作業

- ① 募集要項の制定と公布
- ② パンフレットの作成と公布
- ③ 申請者の募集
- ④ 申請書の受理
- ⑤ 選考委員会による選考と審査
- ⑥ 選考結果の通知
- ⑦ 助成金の支給
- ⑧ 助成金受給者からの活動報告の受付その他必要な事務連絡

3. 推進体制

- ① ホームページの応募
- ② 60社余の新聞社にプレスリリース
- ③ 各主要大学の関係部署に博士号取得支援事業のパンフレットを配布する。
- ④ 専属事務員が募集関連の事務作業を担当し、希望者の問い合わせに答える。
- ⑤ 5年後をめどに、この事業で博士号を取得した人材を活用し、当財団の職員あるいはボランティアとして事業の展開に協力してもらう予定である。
- ⑥ この事業と関連があり、あるいは協力関係にある大学や学者のデータベースを作成する。